1 プラス壱

明田 合志

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

1 プラスギ

【Nコード】

N4663L

【作者名】

明田 合志

【あらすじ】

数学×国語で最強！？

理系人間尾野と文系人間大津が事件をスパッと解決。コメディ風味の学園ミステリー。

始まった。？

現在、気温32度。時刻、12時ちょっとまわったくらい。状況……理解不能。

「随分といきなりだな」

皆さん、現在、僕は相当意味不明な男になってしまいました……目の前の少年　　おおつしんた 大津深太のせいで……

「せめて説明しような？　この騒ぎが起こった理由くらい！！」

現在、僕の目の前には一人の少年がいる。言うまでもなく、大津だ。

しかし、特筆すべきはその後ろ。何故か、県立川上高校　我が校の名前だ　　の、1年C組からE組の生徒がD組の教室の中に、全員集結していて、全員、こつちを向いている、いや、睨んでいる。

……普通にびびるんですけど。

「それは、俺の義務なのか？それとも、お前の希望か？」

「両方だ」

「欲張りだな」

顔色も変えずにやつは即答した。

……ここまで来ると、逆に怒気は失せるよね。

暴力をふるう気はないけど、とりあえず精一杯睨んでみた。

「……理解した。お前は説明しなきゃ話すら聞く気がないんだな？
なら、説明してやる」

睨みは効くのかな？

長い髪を触りながら、大津は言った。でもやっぱり、偉そうな態度と顔色は変わってない。

偉そうだし、第一、遅い。が、説明してくれるのならもうなんでもいいか。

でも、ここでありがとうって言うほど、僕は寛大じゃない。だから……

「何でお前が、そんなに偉そうなのかも説明してくれない？」

一応、仕返しはする。

出来る限りの最大の笑顔で皮肉ってやった。

だけど、僕の反撃は全く効いていないらしく「話が長くなるから、省略」と大津はやはり顔色を変えずに言葉を出す（悔しいけど、予想通りだ）。

「……説明をするぞ。簡潔に言えば、これはいわゆる一つの事件だ」

梅雨前になって、だんだんとサウナ化してきた僕の心と身体を、冷たく、鋭利なものが貫いた。

事件？

「それ、マジなの？」

「ああ。女子生徒の鞆が三時限目の体育の間に無くなったんだ。」

「盗難か……」

殺人とかをちよつと予想してたよ。不謹慎だけど、ちよつと安心。

「いや、違う。鞆はその後、見つかったんだが……」

そう言つて、大津は右手の方を指差した。

「うわ、ひどい……」

そこには、ずぶ濡れになって見るにも無惨な姿になった鞆があった。

「さつき、俺が見つけたんだ。この教室の真下の池でな。とりあえず、先生に届けようと思つて、校内に入ったら、D組の生徒に何故か誤解されてしまってここに連れて来られたんだ」

大津は例の如くさらつと言う。が、今の言葉は、少し何か引つかかる。何だ？

考える……何かおかしい。何か……何かある。力を解放しろ！

僕の脳！

はっ。

もう一度、僕を冷たいものがつきぬけた。何てことだ……つまり……つまり、お前は……

「お前は容疑者としてここにいるんですね？」

「その通りだ」

「帰るっ」

「ま、待て。気持ちはわかるが、まあ待ってくれ」

「お前のせいで共犯者として疑われたら、どうするんだ……！」

「案ずるな。もう多分疑われてる」

「案ずるわっ。大体どうして、僕を呼んだんだよ！」

面倒ごとに巻き込みやがって。ああ、何で僕ものこのこと来たの
わ……

「お前を何故呼んだか？ そんなの解りきってるだろう？ 事件を
解決するためさ」

は？

耳を疑った。

何度も、何度も。そして出た結論はやっぱり……

は？

「は？ は？ 大事なことから三回言う。は？」

何を言ってるんだ、こいつは。そんなことできる訳が……

「いや、できる。俺とお前なら」

そんなこと言われても、これっぽっちも嬉しくないわっ。

「でも、一体どうするのさ？」

解決できる可能性は0に近いと思うんだけど。

しかし、大津はそこで今日始めて表情を崩した。

「大津？」

笑ってる。大津が笑ってる……？

「大丈夫だ。犯人なら解ってる」

>> 作品管理トップへ戻る — 次話投稿 — 小説編集 —
仮想ケータイ表示 — 話別レイアウト設定 — 削除

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4663/>

1プラス巻

2010年10月9日02時02分発行